

# ＝ 普 及 情 報 ＝

No. 22

令和8年1月9日

標題 集落総点検！！集落営農の後継者づくりに向けた個別相談会を初開催！

(ダイジェスト)

12月15～26日、JAしまね出雲集落営農組織連絡協議会（会員55組織）の活動の一環として、後継者確保に向けた個別相談会を初めて開催しました。

JA営農センター5会場で20組織の参加があり、後継者確保に向けて集落営農組織側は「組織の課題として取り組む」、関係機関側は「想いを聴き、支援に入り込む」、双方にとっての「きっかけの場」になりました。

管内の集落営農組織は、構成員の高齢化が進む中、定年延長や他産業との競合などによりオペレーター等の人材確保が困難となり、今後の経営継続の大きな課題となっています。

そこで、後継者確保に向けて集落営農組織に寄り添い、一緒に考え、具体的な取り組み（県、市事業の活用もセット）につなげることを目的に標記の相談会を開催しました。

当日は、県、市事業の説明後に個別相談を行い、組織毎2～3名の支援チーム（市、JA、県農業経営課、県農業部）が相談対応しました。

また、相談会ではイメージ図とチェックシート式のヒアリング用紙を用いて双方の認識（組織の理念、想い描く後継者像）をすり合わせながら、人材の掘り起こし（集落総点検）につなげました。



相談会で活用したイメージ図の一例

## 【相談会にあたって意識した点・工夫点】

- ① 関係機関によるチーム活動、支援体制づくり  
⇒事前打合せで会の目的と到達目標を共有、役割分担
- ② 集落営農組織の想いを引き出す雰囲気づくり  
⇒発言しやすいように普及員が会話を促す
- ③ 単発の会で終わらない、次につながる仕掛けづくり  
⇒チェックシート式のヒアリング用紙で人材の掘り起こしと事業活用の意向を把握



イメージ図を活用して深掘りすると、集落内の○○さん、市内居住の○○さんといった具体的な候補者が挙がりました！

相談会の結果、12組織で34名（主に30代～60代）の声かけ候補者を掘り起こしました。うち、10組織では県、市事業の活用も検討中です。

当農業部では引き続き、関係機関と連携したチーム活動で県、市事業の活用も併せた候補者への声かけ、受け入れ等の後継者確保に向けた具体的な取り組みを支援していきます。